

地方病撲滅、源氏ポタル復活へ！

昭和町は古来ホテルの名所として知られ、天然記念物として指定されるほどでした。しかし、住民を悩まし続けていた原因不明の病・地方病の中間宿主である宮入貝駆除とともにホテルもほとんど姿を消してしまいました。

この地方病の原因究明・撲滅に私財を投じて取り組んだのが杉浦醫院の医師・杉浦健造氏です。偕成社より出版された『郷土の発展につくした先人③医療』には、杉浦氏の業績が詳しく紹介されています。現在杉浦醫院は「昭和町風土伝承館」として残され、地方病と戦った住民や医師たちの貴重な資料が展示されています。また、裏庭では「昭和町源氏ポタル愛護会」がホテルの幼虫を飼育し、地方病とともに消えたホテルの復活に取り組んでいます。

(昭和町立図書館 秋山洋子)

昭和町立図書館編



町内全小中学校の校章デザインはすべてホテル

『地方病体験記』も近々刊行予定

図書館ボランティアの日常から



今日は、福沢諭吉の『学問のすずめ』。

下調べ表

日	時間	内容	担当者
2/16	10:00-11:00	読書会	トロ
2/17	10:00-11:00	読書会	トロ
2/18	10:00-11:00	読書会	トロ
2/19	10:00-11:00	読書会	トロ
2/20	10:00-11:00	読書会	トロ
2/21	10:00-11:00	読書会	トロ
2/22	10:00-11:00	読書会	トロ
2/23	10:00-11:00	読書会	トロ
2/24	10:00-11:00	読書会	トロ
2/25	10:00-11:00	読書会	トロ
2/26	10:00-11:00	読書会	トロ
2/27	10:00-11:00	読書会	トロ
2/28	10:00-11:00	読書会	トロ
2/29	10:00-11:00	読書会	トロ

アクセントや難しい語句は下調べ。注釈をいれながら読み進めます。

Vol.8 耳からの読書 代読サービス

代読サービスは、毎週金曜午後1時から3時に行っている読書が困難な方への“聴く読書”のサービスです。現在、音読の研修を終えた8名の図書館協力員が活動しています。ご利用の方に好きな本を選んでいただき、防音の読書サービス室にて音読します。利用は予約制になりますが、当日でも時間中に空きがあればご利用いただけます。

※利用には障害者サービス登録が必要です。(企画振興担当 三森)

Information

2022年度これからのイベント

6月19日(日) シネマかいぶらり『グリーンブック』

1962年。天才黒人ピアニストと粗野なイタリア系用心棒は黒人専用旅行ガイド「グリーンブック」を頼りにコンサートツアーへ繰り出す。



6月30日(木) かいぶらりシチズンカレッジ「楽しく食べて健康に！」

シニア世代におこりやすい低栄養状態。高齢期の栄養の摂り方や食事の大切さを(株)キューピーの協力で分かりやすくお話しします。



※新型コロナウイルス感染症の状況により、延期または中止となる場合があります。

ジッポからのひとこと便り

山梨県立図書館は、2012年に建て替えのため甲府駅北口に移転したため、2022年は新館10周年イヤー。色々なイベントを企画しているらしいぞ。乞うご期待！

当館キャラクター 本探偵 ジッポ・ホームズー世



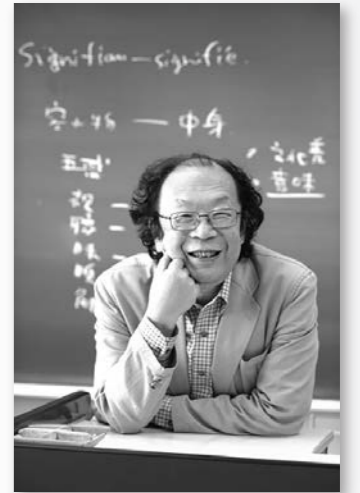
YAMANASHI PREFECTURAL LIBRARY

山梨県立図書館報 151 2022.4.1 発行

モグラもちの世界

館長コラム

モグラもちはどんな生活をしているのだろうかと思案してみます。私たちがからすると狭い狭い世界に閉じ込められているように思えますが、真っ暗な世界はそれなりにいろいろなことがあって、柔らかかったり暖かかったり、愉快だったり悲しかったりしているでしょう。何より光ある世界を知らないのだから、私たちの興味を惹くものについて一切無関係に過ごしていて、それなりに平穏なのではないかと思案します。時々地震なんかがあってびっくりしたりするでしょうが、その原理は彼らには一生分からないままで。私たちが新型コロナの原理が全然わからずに、右往左往しているのと同じです。時々酸素のあるところを掘り当ててほっとするのは、私たちが本を読んでほっとするのとあまり変わらないのではないかと思案したりします。私たちが多かれ少なかれ、みんな全員モグラもちと同じように、不自由さと楽しさの中で生きているのです、きっと。



撮影/タカオカ邦彦

金田一孝徳

本と人をつなぐ

第8回 図書館のSNS発信

山梨県立図書館(かいぶらり)公式 3,118件のツイート
山梨県立図書館(かいぶらり)公式 @lib_pref_ymns - 1月30日
#ジッポのつづやき #山梨県立図書館 #長谷川町子 さん



インターネットでの情報発信として、県立図書館では公式のWebページだけでなく、Twitter、Facebookを活用しています。

図書館からのお知らせや展示・イベント・研修会等の情報、図書を紹介、ホームページ更新状況など、SNSの速報性を活かして最新情報を発信するほか、ときどき図書館公式キャラクターのジッポ・ホームズー世が、飛び入りで“耳寄りなお話”を呟くことも……。気になる方は、図書館の公式アカウントをチェックしてみてください。

(情報システム担当 馬淵)

公式Twitterアカウント:@lib_pref_ymns

公式Facebookページ: <https://www.facebook.com/lib.pref.yamanashi/>

第107回全国図書館大会山梨大会開催

令和3(2021)年11月11日、12日、「知をつなぐ、甲斐(交ひ)の国から」を大会テーマとして、オンラインによる全国図書館大会山梨大会が開催されました。公益社団法人日本図書館協会と山梨県、甲府市等が構成する第107回全国図書館大会山梨大会実行委員会が主催し、当館が事務局の中心を担って大会運営を行いました。全体会では、本県出身で集英社会長の堀内丸恵氏と金田一館長による対談が配信され、全部で16設けられた分科会では、様々なテーマによる事例報告と研究協議が、全国各地をつないで行われました。また、12月末までの記録配信の実施により、時間の制約なく大会プログラムが閲覧可能となるなど、オンライン開催ならではの利点も活かされました。コロナ禍でオンラインによる実施を余儀なくされましたが、むしろ今後の開催の在り方を考える上でも、大変意義深い大会となりました。

記念対談「これからの出版と図書館」

年齢も2つ違いと近く、お互い山梨にゆかりがあることが縁で実現した今回の対談。堀内会長からは高校生の頃自転車で富士山一周をした思い出や、編集者時代の手塚治虫氏とのエピソード等が語られ、話題は多方面に及びました。場所としての図書館の重要性や、紙でもデジタルでも、図書館を含む多様なチャンネルで、読者が本とつながることができる環境が大切で、「本離れ」は起きていないと堀内会長の発言が印象的でした。



オンラインでの配信

新型コロナウイルス感染症拡大のため、昨年の和歌山大会と同様、山梨大会もオンラインの開催となり、一部生配信によるリアルタイムの研究協議も行われました。総視聴回数は15,006回、参加者総数は1,462名を数え、コロナ禍で集会形式の会議は困難でしたが、全国から多くの参加者を受け入れることができました。また、現地開催で行われる交流会の代わりとして、ネットワーク上にメッセージングアプリ「Slack」を活用した情報交換の場を設けて参加者間の交流を促すなどの取り組みも行いました。



分科会から

配信された16の分科会の中からいくつか内容をご紹介します。

第1分科会「地域社会における公共図書館の存在意義」の意見交換では、出版社×図書館×書店の各分野から6名のトークゲストが集まり、これからの図書館像について語りました。イベントや多様な館内機能の見せ方によって、本を読まない人にとっても、本を手にするきっかけが増えるのではないかとといった問いかけもあり、地域社会の中で公共図書館が果たす役割について活発な議論が交わされました。

第2分科会「新型コロナウイルス感染拡大と大学図書館」では、学生グループの発表もあり、各大学や附属図書館閉鎖の影響、またそれにとまなう電子ブックやWEB資料活用状況などが報告されました。あらためて図書館というリアルな場の存在意義を再確認する必要があるのではないかと指摘がなされています。

第4分科会「こどもと本をつなぐ・つなげる」では、子どもの読書にとって、電子と紙の違いはあるのかとの意見や、また、アニメーションを通して本を読む楽しさを感じてもらえた嬉しさ等が語られ、子どもの読書を取り巻く環境変化をも踏まえて、活発な意見交換が行われました。



この本が好き！

図書館スタッフおすすめの1冊

『灼熱』

葉真中 著
新潮社



戦前、共に生きてきたブラジル移民の苦難と、戦後に日本移民を二分し多数の死傷者を出した「勝ち負け抗争」に至るまでを二人の男の目線から描いている。

知られざるブラジル移民の物語



山梨県立図書館
企画振興担当
小笠原宏

史実を丹念に調べ上げた作品で、予備知識もなく読み進んでも、当時の様子がとてもよく分かります。苛烈な環境で、自国への誇りが支えになっていたが故に、頑なまでに敗戦を信じなかった人々がいたのかもしれませんが。人は信じたいものを信じる。しかし、信じたいものが初めからはっきりしているわけではありません。人間のこころは複雑で、その定まらないベクトルが、あるキッカケで一つの方向性を持つようになります。それが本書に描かれているフェイクニュースや陰謀論だったら悲劇となります。情報が溢れ、情報に踊らされがちな今こそ、多くの人に読んでほしい作品です。

県図書TOPICS

TOPIC1

贈りたい本大賞表彰式、 いとうせいこう氏× 金田一館長トークショー

11月21日、第8回贈りたい本大賞の表彰式を行い、4,281点の応募の中から選ばれた大賞、学校賞の受賞者に賞状を授与しました。続いて開催したいとうせいこう氏と金田一館長のトークショーでは、日本語ラップや東日本大震災の被災地の取材など、多彩なトークに引き込まれました。



(企画振興担当 大窪)

TOPIC2

甲府工業高校生徒製作 ブックトラック納め式

1月23日、甲府工業高校建築科の生徒がデザイン・製作したブックトラックが納品、お披露目されました。多様な方の利用を考えて塗装をせずに無垢の木材のまま、また、怪我をしないような配慮が随所に施されています。長く大切に使用させていただきます。



(総務企画課 古谷)

TOPIC3

「子どもの読書指導者 養成講座」をオンラインで 実施しました

今年度はウェブ会議システムZoomウェビナーで、講師と県立図書館の会場、職場等の受講者をつなぎ、全4回開催しました。講師にはオンライン視聴にあわせ、見せ方、話し方を工夫していただき、受講者からはわかりやすい、遠隔地から参加しやすいと大変好評でした。



(子ども読書推進担当 小林和)

TOPIC4

電子書籍のテーマ特集

当館HPの電子書籍ページでは毎月2回、テーマを絞って関連本を紹介する「特集」を組んでいます。季節のイベントや料理書、図鑑や歴史書など特集内容は様々。電子書籍は特別なアプリは必要なく、インターネット上で借りて読むことができますので、おうち時間の充実にぜひご利用ください。



(情報システム担当 杉山)

テーマ展示の報告

中部横断自動車道 山梨～静岡全線開通記念
『静岡・山梨がもっと身近に！』
令和4年2月18日(金)～3月13日(日)

『静岡県不思議事典』 小和田哲男・編／ 新人物往來社
『国宝 久能山東照宮 家康とゆかりの名宝』 静岡市美術館
『東海道五十三次「食」ウォーキング』 幕内秀夫／講談社
4つのテーマで静岡の本を紹介。

毎年行っている静岡県との連携展示。令和3年8月29日、中部横断自動車道によって静岡・山梨の県庁所在地が結ばれたことを記念し、昨年度は上記のテーマで静岡県に関する資料を紹介しました。
静岡県立中央図書館からお借りした本は多くの利用者の方が手にとってくださり、中部横断自動車道沿線地域の観光パンフレット、写真等のパネルも好評でした。本やパンフレットをお供に、おとなり静岡県へのドライブを楽しんでいただけたらと思います。(調査サービス担当 進藤)